

生徒指導だより NO. 14

令和3年3月2日

3月の生活目標～感謝の気持ちをもって生活しよう～

今週、いよいよ3年生が卒業を迎えます。西方中の卒業式は今年で第74回目です。今年は57名の3年生がこの学び舎を去ることとなります。感動の卒業式にむけてあと少し。3月の生活目標である「感謝の気持ちをもって生活しよう」にちなんだ話を紹介したいと思います。

校長先生からいただいた本のお話を紹介します。



【世界の HONDA の創業者の涙】

1991年、本田宗一郎さん（HONDA 創業者）は亡くなっていますが、生前、宗一郎さんは、こんなことを話していました。

「素晴らしい人生を送ることができたのも、お客様、お取引先みなさん、社会みなさん、従業員みなさんのおかげである。」

「俺が死んだら、世界中の新聞に“ありがとうございました”という感謝の気持ちを掲載してほしい」

宗一郎さんは66歳で引退し、仕事からは、一気に離れたそうです。社長を辞めた後、宗一郎さんは何をしたかというと、日本中にある、ホンダの事業所…販売店から工場から…当時、700カ所すべてを回って、すべての従業員一人一人と握手して、「ありがとう、ありがとう、いつもありがとう！」と言う旅をしました。中には、2～3人しか働いていないような事業所も全部回ったそうです。全部まわって一人一人と握手して、そして海外の事業所も周り、何年もかかったそうです。

周りの人たちは、「ホンダの創業者が直々に握手しにいけば、社員のモチベーションはあがりますよね。仕事をもっと頑張ってくれて、業績も上がりそうですね。だから握手しに行くんですね」って言っていたそうですが、宗一郎さんはそんなことを気にもせず、本当に自分がお礼を言いたいから回っていただけだったそうです。

ある日、田舎の販売店をまわった時に、車の整備をしていた人が、「宗一郎さんが来た！」と聞いて、喜んで走ってきたことがあったそうです。

整備士の人は握手をしてもらおうと思って自分の手を差し出した瞬間に、「アッ！」って言って、パッと自分の手を引っ込めました。なぜかと言うと、手が油まみれだったからです。

「今、洗ってきます！」と、手を洗いに行こうとしたら、宗一郎さんはその社員の背中に向かって、「その油まみれの手がいいんだ！」と言って、その整備士を引き止めて、両手で握手したそうです。

嬉しそうにその手をながめて、目を細めて、油のついた手をしっかり握ったそうです。

整備士の人はどんな気持ちになったのでしょうか。とても感動したんだろうと思います。

宗一郎さん、こんなことも言っていたそうです。

「握手すると、みんな泣くんだ。そして、その涙を見て、自分も泣くんだ」と。

なぜ泣くのでしょうか。それは本田さんの感謝が本気だからです。

本当に心からみんなに感謝しているんです。だからみんな涙を流すんです。

参照「あなたの人生が変わる奇跡の授業」三笠書房

本田宗一郎さんの話からは「本気の感謝は自分だけでなく、相手の心を動かす力がある」ということを感じさせます。また、別の話を紹介します。これは以前ある学校で働いていたときに、聞いた話です。

【「おめでとう」よりも「ありがとう」を】

卒業を前にした集会でのことでした。ある先生がこんなことを生徒の前で言いました。

「みなさんは、中学校に入学してから、どれくらい「おめでとう」と声をかけてもらったでしょうか。考えてみてください。「入学おめでとう」から始まり、進級の時の「おめでとう」、誕生日の「おめでとう」。たくさんの「おめでとう」が皆さんの周りにあったのではないかと思います。そしてこれからの「卒業おめでとう」、「合格おめでとう」「入学おめでとう」。これからもみなさんの周りには「おめでとう」があふれていくことと思います。

逆にみなさんはどれくらい「ありがとう」を伝えてきたでしょうか。言葉だけでなく、態度も含めて良いです。「おめでとう」という相手からいただく祝福の気持ち以上に、自分の感謝の気持ちを言葉や態度で伝えることができていますでしょうか？

社会に出て行く人として、「おめでとう」を言われるよりも「ありがとう」を伝えて、人を幸せにできる人になっていってほしいと思います。これが私の願いです。」

これはある先輩の先生の話でしたが、ずっと胸に入ってきた内容でした。「感謝の気持ちを表すことは人を幸せにするんだなあ」「ありがとう」という言葉や感謝の態度は大事だなあ」と当時感じたのを今でも覚えています。

最後にもう一つ。西方中に関係する話をします。

西方中は「凡事徹底（当たり前のことを当たり前）」がよく使われています。では、その「当たり前」の反対は何でしょうか？

答えは、「ありがとう」です。

「ありがとう」の語源は「めったにない」の「ありがたし」から来ています。めったにないことだから感謝しようという考えが生まれ、今の「ありがとう」が生まれたのです。

当たり前に食事をし、当たり前に学校に来る毎日。しかし、それは本当に当たり前なのでしょうか？今年はコロナウィルスの影響で、今までの当たり前が大きく変わった1年間になりました。そのことを考えれば、みなさんの「当たり前」は、本当は「めったにないこと」の積み重ねだったということができると思うのです。

社会に出る人材（人財）になるために、西方中生には凡事徹底を心がけるよう、ずっと伝え続けていました。みなさんも本当によく頑張ってきたと思っています。しかし、形だけでなく「凡事（当たり前）」の裏側にある「ありがたさ」に気づけてこそ、本当の「凡事徹底」になるのだと私は思います。

卒業式まであとわずかです。「ありがとう」という言葉がたくさん聞ける西方中学校であってほしいと思います。また、「ありがとう」という言葉自体はコロナ禍の今、なかなか伝えづらいかも知れません。それでも様々な形で感謝の思いを形にして、生活していってほしいと思います。「西方中生で良かった」「これからも西方中生であったことを誇りにして頑張ろう」そんな気持ちになれる卒業を迎えてください。

